

2017



J・A・C

(第 36 号)

千葉支部だより



平成 29 年 3 月発行

日本山岳会千葉支部

発行者 三木雄三

編集者 吉野 聡

事務局 〒283-0116

千葉県山武郡

九十九里町西野672-2

三木雄三方

T E L 0475-76-9467

E-Mail

“親子で楽しむ山登り” 富山ハイキング

茂原市子どもセンターと子どもたち

12 月 1

千葉支部は事業の一つとして、親子で一緒に自然に親しみ、安全に登山を楽しむことの普及を目指している。「山の日」記念行事の一環として、子どもたちに自然に接する機会を提供しようという茂原市子どもセンターと一緒に「親子で楽しむ山登り」富山ハイキングを催行した。千葉の名峰の一つである富山(349メートル)に13家族 16名の子どもたちを子どもセンターのスタッフと千葉支部の会員が引率した。当日は天気も良く全員元気に富山の山頂に到着して、素晴らしい展望を堪能した。途中、地層や植物についての説明を聞きながら子どもたちは大喜び、親も興味深々。



元気いっぱい登頂、富山展望台(北峰)にて

地層の観察

「ここは大昔、海の底だったんだよ」との説明に親子で「エッ、ウソー」と驚きの声



参加者

茂原子どもセンター：子供 16名と保護者 15名、スタッフ等 12名 茂原市教育委員会：内田達也
千葉支部：三木雄三、高橋琢子、平出正美、吉野聡 (敬称略)

子どもたちは「大変だったけれど、頂上に登った時がとてうれしかったデス」「地そうのできかた・いろいろな植物のことがわかった」と感想を述べていた。

趣旨に賛同して参加した内田達也茂原市教育長は「授業では経験できないことを子どもたちが学んで大変良い機会だった」と話した。

今後とも親子登山が支部の事業として発展していくことを期待したい。(吉野聡)

2017



39号)

平成
千葉支部



日本山岳会
支部長から連
に帰り取り
い」との換
に入り、平

業計画、予算及び役員選任
名となり、会友は13名が
總會終了後、浜口欣一会
了後、恒例の「美弥和」に

初めての年次晩餐会

12月3日（土）

三田芳江

会員になって初めての晩餐会。「晩餐会」という言葉の華やかさに少し気後れしましたが好奇心の方が強く出席することにしました。晩餐会の前に、別会場でマナスル登頂の特別展示、ビデオ上映、山岳スケッチ展、図書交換会を見てグッズ販売コーナーで記念に JAC のマーク入り Tシャツを購入しました。平成 28 年度秩父宮記念山岳賞を受賞された慶応義塾大学名誉教授の鈴木正崇氏の『日本の山岳信仰と修験道』という講演を聞きました。日本人の山岳信仰の変遷と現代の価値観の変化への考察が興味深かったです。

講演会の後はいよいよ晩餐会の時間。各テーブルには山の名前が付いていて、全部で 48 テーブルありました。私のテーブルは「十勝岳」。千葉支部の出席者は総勢 23 名でした。皇太子様のご入場をワクワクしながら待ちました。新永年会員の 85 才の宗實二郎さんのご挨拶では、山と共に長い人生を歩んで来られた感慨を伺い敬意の念を抱きました。



新入会員の紹介で千葉支部からは 4 名の新入会員が壇上に上がりました。新入会員代表で静岡支部の 21 才のフレッシュな大島わかさんが「今、山が好きで堪らない！」という熱い思いが伝わる挨拶をしました。臺が立った新入会員の私ですが「ワクワクする気持ちは一緒だなあ」と思いました。フランス料理のフルコースを頂きながらお酒も進み、初めてお話しする方とも打ち解けて同好会や委員会活動のお話を伺う内に、あっという間に楽しい時間は過ぎ閉会の時間になりました。

入会させて頂いたお陰で今回の年次晩餐会に出席でき、日本山岳会の活動や関わっている方の層の厚さが分かる良い機会になりました。これからもっとクラブライフを楽しんで行けるように活動の場を広げていけたらと思います。



恒例の
新入会
員紹介

晩餐会記念懇親山行（箱根外輪山乙女峠・丸岳ハイキング）に参加して

12月4日(日) 柳川しげよ

1年のうちで最も贅沢で楽しみである、昨日の晩餐会に引き続き2日間が、今年もまたやって来た。晩餐会記念山行は、3回目の参加となる。8時ちょうど、新宿駅西口を総勢86名を乗せたバス2台が、富士山の絶景が見られる箱根の外輪山乙女峠から丸岳へ向け出発する。本日は、晴天。この時期は、お天気に恵まれ絶好の初冬ハイキングでもある。車窓からも、もうすでにどっしりとした富士山が目に入ってくる。なぜ日本人は、富士山がみえるところも嬉しく、感動するのであろうか？誰もが富士山が見えることを願いつつ、全国から集まった山岳会のかたがたと一歩一歩足を進める。

乙女峠登山口でバスを降り、身支度を整え出発する。ゆるやかな登り道を30分ほどで乙女峠に到着する。右手に富士山、左手に明神岳、箱根山、噴煙の上がる大涌谷を見ながら丸岳に足を進める。



登り始めて1時間30分程で、標高1154メートルの丸岳頂上に。ここからは、富士山はもちろん芦ノ湖の展望も楽しむことができる。ここで昼食をとり、長尾峠に向け下山する。長尾峠では、全員で集合写真を撮る。

さらに、急坂を登って行くと急に目の前が開け、ここは、富士見ヶ丘公園である。なんと裾のまで広がる富士山を目のあたりにした。雲一つなし。これぞ日本一。世界一とでも言えようかな。これ以上のものはなし。何枚も何枚も写真を撮りあった。何度も振り返りながら富士山を後にして下山した。

今年も見せてもらいました。山行委員の方々は4回も下見をされ、好天にも恵まれ、忘れられない記念山行となった。さすがに、素晴らしい山を選んでもくださった。感謝、感謝です。どうか、千葉支部の皆さん、今年は是非、晩餐会記念山行と一緒に出かけませんか。

忘年山行～房州アルプスと鎌倉古道、梨沢溪谷

12月23日(金)

3グループが三浦三良山で集結

房州アルプスと鎌倉古道を繋いで歩く忘年山行が平成28年12月23日に行われた。今回は参加者19名が3グループに分かれて別々のコースを歩き、三浦三良山で全員が再集合する集中登山形式で行った。

その日の夜は内浦山県民の森「せせらぎ」に宿泊して、おいしい料理とお酒で忘年会を行い大いに盛り上がった。2次会では、山本さん山口さんが当日の沢歩きの動画や、今年行った山行のスライドと動画を上映して楽しませてくれた。翌24日は15人が参加して郡界尾根踏査が行われた。帰りには、最近脚光を浴びている「濃溝の滝」を見物し、内容盛りだくさんの忘年山行になった。

のどかな千葉の山を楽しむ 節田重節

「ここが三浦三良山の頂上だと思います。少し早いです、お昼を食べながらBコース、Cコースを待ちましょう」

リーダーの声に頷いたものの、「えっ、これが頂上?」という疑念が消えなかった。自分で言うのもなんだが、根が几帳面な性格のため、頂上である証を確認すべく、不等辺三角形の真っ平らな山頂を歩き回る。

あった、あった。頂上台地の南隅に小さな木片で「三浦三良山山頂」とあり、台地の北の縁に同じく小さな板切れに「三浦三良館跡」と書かれ、なぜか遠慮がちに（自信なさげに?）立てられていた。なるほど、三浦半島を中心に房総半島にも版図を広げていた三浦一族の館跡だったのか。

これでひと安心。季語でいうとまさに「冬うらら」といった穏やかな風情で、木漏れ陽を受けながら倒木に腰を降ろし、やっとお弁当を広げる。今回は集中登山とのことだが、集中登山というと、どうしても四方から尾根が収斂した槍ヶ岳のよう



Aコースメンバーとのどかな里山風景

な、シンボリックな頂上での集結を想像してしまうが、今回の集中登山は、今日の陽気のように真にのどかなものである。

少し遅れているBコース、Cコースの山仲間のことを案じながら四方山話に花を咲かせているAコース一行の様子は、実に微笑ましい。房総の里山での集中登山は、皆の気持ちが集中して高まる、温かな登山だった。

支部山行に初参加して 松田宏也

会社勤めのリタイアとともに都内から佐倉市へと転居をし、これからは暇に任せての山歩きを楽しもうとJAC千葉支部に連絡を入れたら、最初の山行が房州アルプスであった。私のコースは梨沢から大塚山・三浦三良山を経て鹿原へ下山である。

千葉の山は低山ではあるが奥深いとの言葉通り、入山者の少なさが功を奏しているのか歩きづらさが却って本来の山歩き感覚を楽しませてくれる。経験者同行でなければどこが大塚山、三浦三良山の頂上なのかがわからない。地図読み力が試されるのも千葉の山の特徴なのだろう。しかしながら、一旦見晴らしのよい場所に出れば幾十もの山々が重なる眺望がぐるり一周と広がる。空は広く、海の匂いがここまで漂ってきそうである。まさに房州アルプスの呼び名に相応しい。

民家の庭先の道に点在するスイセンの花と遠望の富士山を愛でながら気分よく下山をすれば、あとはおまちかねの忘年会。内浦山県民の森でひとつぷろ浴び、大きな金目鯛の煮つけに大満足し千葉支部の楽しい忘年山行を終えた。皆さんこれからもよろしくお願ひします。

三浦三良山に全員集結



参加者（敬称略・忘年会のみ参加者含む）

岩尾富士夫、神山良雄、櫻田直克、節田重節、高橋琢子、三田博、柳下忠義、柳川しげよ、山口文嗣、山崎完治、湯下正子、吉野聰、三田芳江、吉田明子、鈴木操、小澤けい子、高橋正彦、松田宏也、宮崎美智代、齋藤米造、梶田義弘、梶田天平、山本哲夫

沢登りやってみました！ 三田芳江

暖かく穏やかなお天気助けられ、郷蔵から私の初めての沢登りがスタートした。ハーネスを着けロープを腰に下げるなんて初めてで緊張とワクワクが半々。前日の大雨で梨沢の河原に降りる道はドロドロで足元は悪く、沢靴なので尚更滑らないように気を付けた。河原に降りると歩きやすくなり暫くは浅瀬を渡渉しながら行き、1時間程で目の前に高い黒い岩肌を勢いよく流れ落ちる滝にぶつかった。大滝だ。どうするんだろう？ロープを持った岩尾さんがスルスルと滝を登り、後続はそのロープを使って行く。初めてのハーネス体験…腕に力が入り過ぎ翌日は筋肉痛に。それでも落ちてくる水しぶきを浴びて登るのは楽しかったあ！そこから1時間、流木で堰き止められていたが七ツ釜では少し深い淵や釜に手間取りながらもドボンせずに通過。堰提手前から急斜面を登り合流地点の三浦三良山へ。Cパーティーの皆さんお世話になりました。また沢登りに行ってみたいです!!

郡界尾根踏査の報告

第 12 回 平成 28 年 12 月 24 日 (土)

齋藤米造

コース：柚子の木林道→長野田山→小町峰峠（長野田番所跡）→香木原峠→香木原林道

10:03 今回は 16 人の大編成で岩尾さんをトップ、山口リーダーをラストに出発。柚の木林道をやや進んだところで左側（北側）赤布のあるところから郡界尾根に取り付く。

10:36 長野田山頂。フラットなピークを直進方向に赤布に誘われるまま行くといつの間にか左側（東側）の稜線に入り込む。トップの岩尾さんがすぐに気付き、右へトラバースしながら郡界尾根に復帰。いきなり房総の入り組んだ稜線のルートファインディングの難しさを思い知らされた。岩尾さんの高性能GPSが心強い。この先も同様の困難が予想され、気を引き締める。

小さいが印象的な岩頭を経てしばらく、大きな 1 枚岩が左側（東側）に落ち込んでいて、ここは危険回避のため慎重に岩の下辺を大きく巻いて行く。

11:27 郡界尾根が柚ノ木林道に接合する地点に出る。時間が掛かった割に進んでいない。山口リーダーから、“ここで昼食”と声がかかる。

11:52 出発。289 メートルピークを越えたところ、幅広い尾根を直進するも、トップとラストが分断、



参加者：山口文嗣（L）、三田博（SL）、岩尾富士夫、神山良雄、節田重節、高橋琢子、柳川しげよ、山崎完治、吉野聡、三田芳江、鈴木操、小澤けい子、高橋正彦、宮崎美智代、山本哲夫、齋藤米造（敬称略）



ピッピーと笛で合図を送りながら引き返すと山口リーダーと合流、“長野田番所跡”に出た。川越藩の飛地領として最も重要な番所で、藩主自ら領地視察に赴いたということで「御成街道」と言われる旧道が横切る。（地名考資料提供、鈴木さん）

シュリング 2 本連結で小さな岩頭を超えたところで、山本さんが真っ赤な実を付けた大きなマンリョウの木を見つけ教えてくれた。そう言えば、もうすぐお正月。ややピッチを上げつつ、送電線鉄塔下に出た。

13:50 郡界尾根が香木原林道に出会うところ、切れ落ちた崖でザイルを頼りに降り立ったところで、本日予定の 1/3 を残すも、山口リーダーは無理をせず今日はここまでと判断した。

新入会友として、今回が郡界尾根初挑戦の山行でした。三木支部長から「房総の山をなめるんじゃない」と聞かされており、その通り難しさを実感した山行でしたが、足に山靴の感覚が少しずつ戻ってきて嬉しくもなりました。

新年山行 峯岡浅間・高鶴山

1月7日(土)

國宗文

2017年、新年最初の山行は、予定していた8日の天気予報が降水確率70~80パーセントとはかばかしくなく、3連休中晴天の見込まれる7日(土)の実施となった。この変更でやむなく不参加となった皆さんには申し訳ないが、当日は終日晴天に恵まれ、穏やかな房総の里山を巡る、新春にふさわしい山行だった。



8時20分
木更津駅西
口から安房
鴨川行きバ
スに乗り、
9時40分
主基バス停
で下車、し
ばらく車道

を歩いた。「休日の田舎道なのに意外と車の通りが多く、不思議に思っていると、登山道入口付近に鴨川サテライトという競輪の場外施設があり、8日はまさに競輪開催日。なるほどと皆で納得」。10時30分、浅間神社の入口階段(男坂)ではなく女坂に進む途中、白絹の滝を眺めた。乾燥続きで水量が少なく、滝もチョロチョロ程度。浅間神社に着くと山崎さんが持参のお神酒を捧げ、今年一年の山行の無事を祈り皆で手を合わせた。

トイレ休息の後、社務所横手の祠へ、その後も細

くて急な登山道が続いていた。370メートル程度の里山だし…なんて軽い考えで参加した私は内心焦りながら、ひたすら高橋琢子さんの背中を追いかけることに専念した。12時少し前にパラグライダー練習所に到着。お昼休憩。先程の山崎さん持参のお神酒を皆でいただいた。パラグライダーの為に一体の木や草が刈られた見晴らしの良い場所で、郡界尾根や里の民家を眺め、あれが清澄山、あれが愛宕山と上空を飛ぶ飛行機とともに千葉の山を愛で、天気の良い日に登山できた幸せをかみしめた。

その後、峯岡浅間を後にし高鶴山へ。登山道に入る前に金杖の滝を見に行ったが、すっかり水枯れて滝がない。貯水池からちょろちょろした川の源流に沿っていく。竹やぶを過ぎ、古峰ヶ原神社との分岐を過ぎて14時頃高鶴山山頂へ。石尊様の御堂の中には、赤い天狗面が祀られていた。南側に太平洋がきらきらと輝き、足元には可憐な堇の花が咲いていた。集合写真の後、急坂をロープを手掛かりに注意しつつ下山。里は水仙や菜の花が咲き、ツバキや梅も見られて満足。15時に上神社バス停に着きバスで鴨川へ出て解散となった。



参加者： 山口文嗣、高橋琢子、高橋正彦、山崎完治、船木元、廣村恵美子、國宗文（敬称略）

かくれた名峰本社ヶ丸

平成 28 年 11 月 12 日(土)

山本哲夫

笹子駅合流、駅から右に、JR 研修センター前を通り左に折れ、林道に。笹一酒造の裏手、16 時 30 分までに帰れたら、酒造を見学。林道は、船橋沢に入り、林道終りから登山道が始まりすぐに渡渉だ。前夜までの雨で少し濡れていた。何度か渡渉を繰り返し、尾根への急登。紅葉が朝日で輝いていた。1 時間半歩き林道にて出て休憩。林道から鉄梯子を登り尾根から左上に登ると程なく尾根に出ると鶴ヶ鳥屋山に続く合流点 1300 メートル、尾根を忠実に辿れば目的地に達するだろう。小ピークを巻く最短路か、傾斜もさほどないのでそのまま進むと踏み跡が消えた。メンバーの歩き方をじっくりと観察するとバランスを取り確実に踏み越えてきた。角研山 1380 メートルで昼食休憩とした。ガスコンロで湯を沸かし、スティックのカフェオレを作った。送電線鉄塔下が都留市の分岐、やっと見晴らしが良くなった。雪の南アルプスと奥秩父の大菩薩峠が見えた。一時間程で本社ヶ丸山頂に。珍しく誰もいなく静かによかった。メンバーの到着を一眼ムービーで撮影。



外に誰もいない山頂

三つ峠山の右に富士山が見えるが山頂に雲が掛かっている。15 時頃には山頂の雲が取れるだろう。甲府盆地の奥に間ノ岳、北岳、仙丈岳、甲斐駒ヶ岳と続いていた。30 分休憩でゆっくり下る。樹林帯に一度入り岩場のある小ピークで富士山頂の雲が少し取れてきた。小ピーク下の岩の上が良い展望台となっている。写真を撮ろう。もう見晴らしの良いところは無い。直ぐに清八峠、リズムカルに下り、樹林帯が消え見晴らしの良い尾根で最後の休憩、カヤトに覆われた登山道を下ると林道に出た。橋を渡ると舗装路、大規模な変電所手前で紅葉が綺麗だった。ここから舗装された林道を標高差 300 メートル下る。疲れ切った足に堪えた。東の大月方向にスーパームーンに近い大きな月が昇っていた。笹子駅 17 時 9 分に到着。17 時 36 分の電車、大月駅で 6 分停車の合間に缶ビール、高尾で乗り換え、特別快速で東京駅。充実した山行だった。※山行立案時のコース笹子駅本社ヶ丸三つ峠を前週歩いたが、真っ暗になったので本社ヶ丸一つに絞ってよかった。



三つ峠山の右に富士山が見える

参加者： 山本哲夫、香高真奈美、羽藤美代子、宮崎美智代、高橋琢子 (敬称略)

真冬の西印旛沼散策

1月15日(日) 渡邊信一

1月15日、印旛沼付近の朝は氷点下だった。参加者は京成佐倉駅に9時半に集合し、ここから印旛日本医大駅行のバスに乗り込んで山田川岸でバスを下車し、西印旛沼の双子公園（旧印旛村）に向かった。双子公園は近くで発掘されたナウマン象の親子の像が建っている。車で参加したグループとここで合流した。

西印旛沼は強風で白波が立っていて寒かった。今日はここから西印旛沼に沿って佐倉市のオランダ風車まで数キロをウォーキングする。全くの平地でサイクリングロードでもあり、マラソンの高橋尚子さんが練習していた尚子マラソンロードでもある。歩き出してから印旛沼から強風で震えるほど寒かった。寒波だった。



左に西印旛沼と右は尚子マラソンロード

前後からの自転車やランナー達に注意しながら歩んだ、参加者に女性が多いので様々な話題で盛り上がり、心も体温も徐々に上がってきて気分も良くなった。

12時前にオランダ風車手前の竜神橋付近で、花見川の東京湾河口から出発し、サイクリングロードを2時間かけて自転車でやって来た山本哲夫さんに出会えた。



チュウリップ公園のオランダ風車をバックに

この風車は資材をオランダから持ち込んでオランダ技師により造られている。内部機能は風力で水車を回して排水している現場を見学できた。風が冷たかったので昼食は土産物や中の席をお借りして食べた。帰りは飯野地区のサンセットヒルズの高台から眼下に西印旛沼を展望し、早朝には富士山も望める。北総の田舎風景の土浮を楽しみながら双子公園に戻ったのは15時前だった。

参加者：渡邊信一(L)、三木雄三、高橋琢子、山口文嗣、柳下忠義、坂上光恵、山本哲夫、香高真奈美、杉本正夫、三浦久美、萩原恵、國宗文、大浦陽子、廣村恵美子(敬称略)

雪の三つ峠山行

1月21日(土)、22日(日) 山本哲夫

新宿発 8時14分 快速富士山号 1号車座席指定に。三つ峠駅10時4分着、10時35分歩行開始、駐車場で小休憩、12時15分昼食休憩、ここでアイゼンを着ける。南面になると雪がなくなる。八十八太子14時38分、そこから上は、変化のある雪景色だ。三つ峠山荘下の階段を登ると小屋主の中村さんと松田さんそして真っ黒な犬が歓迎してくれた。夕暮れに山頂に。太陽が沈む直前だった。食事時に、三つ峠ワインのサービス、おいしかった。山荘の先代中村璋さんの写真集を見た後に、中村光吉さんが三つ峠に咲いている花の形と昆虫、受粉の仕組み、懇切丁寧な解説にみんなで酔った。テラスで齋藤さんと富士山の夜景を撮影。三代目を交えて23時過ぎまで歓談。

22日 5時35分起床、防寒、アイゼン準備、甲斐犬がそばを離れない。急いで、山頂に。風が強くと寒さに震えながら日の出を待つ。7時、太陽の周りに薄い雲があり、富士山雪面に当たる光が弱かった。小屋に戻って食事。出発前に中村さんを交えて記念撮影、下山9時4分、霜山10時42分、天上山11時58分、河口湖駅13時5分。JRバス東京行き13時30分に8名の空席があった。東京駅15時35分。三つ峠は何度も訪れていたが、初めて三つ峠山荘に泊まり余裕の山旅でした。



三つ峠山荘の中村さんと記念撮影



変化のある雪景色、少し緊張

以下参加者の感想です

[香高] 1月の三つ峠スノーハイキング、景色や暖かい山小屋のこと思い出す。

[羽藤] 天候にも恵まれて白銀の山と澄んだ星空、三つ峠からの壮大な富士山、気遣いにあふれた山小屋

のご主人と美味しい夕食、我儘な私でも同行できたことに感謝いたします。

[宮崎] 素晴らしい富士山が見え、初めてのアイゼンも楽しかった。3週間以内にまた、山行に出かけたい。

参加者の感想（続き）

[三田博]富士山の眺めが素晴らしかった。三つ峠山荘も素朴で居心地が良く、リピーターになりそうです。

[三田芳]好天に恵まれ、美しい富士山を眺めながらの雪山歩きは気持ち良く、楽しかった。三つ峠山荘の中村さんのお話も興味深く、6月の三つ峠の花の季節にまた訪れたいです。

[湯下] 三つ峠の日の入りと日の出は感激でした。あんなにきれいな富士山は初めて見ました。少し不安もあったのですが楽しい山行でした。あの後、2回筑波山へ行ってきました。

[齋藤]22日早朝、三つ峠山頂に向かう時の、アイゼンが堅雪に喰い込むキュッ、キュッという音が何とも堪らず遠い昔の感触を呼び戻させてくれました。三つ峠山荘の甲斐犬のテレビ放映1月24日22：00～

B S日テレ『ワンニャンクラブ』を皆にアナウンス。

[松田]皆さんと別れてから開運山頂に行き下山しました。その後2月初旬に、旧知の間柄である三つ峠山荘のご主人を誘って南房総の鳥場山を楽しんできました。雪の三つ峠から花咲く早春の房総の山旅に「千葉の山はええなあ〜」とのご主人の弁でありました。

参加者 山本哲夫、香高真奈美、羽藤美代子、宮崎美智代、三田博、三田芳江、湯下、齋藤米蔵、松田宏也
(敬称略)

晴香園の子どもたちと陣馬山へ

12月17日（土） 湯下正子

晴香園の子どもたちと陣馬山山行に参加しました。陣馬山は去年計画して登ったのですが、雪で和田峠までしか行かれませんでした。

そのため、今年はどうしても頂上で富士山を見たいという子どもたちの希望がありました。

今年は天気に恵まれ、頂上からの眺望は360度バッチリ。

明王峠まで富士山が一緒に、子どもたちだけではなく大人も大満足の日でした。

今回の感想は子どもたちに一言ずつお願いしました。

参加者：晴香園から児童6人、職員2人、

千葉支部： 櫻田、羽藤、川島、香高、佐藤、山崎、能美、柳川、鈴木、湯下（名字のみ、敬称略）



子どもたちの感想

和蒔：ふきのとうの氷柱が綺麗だった。

姫恋：寒かったけど、頂上のごはんは美味しかった！

玲南：山頂からはいろんな山がたくさん見れてすごかった。

煌：足が痛くなって大変だった。馬の銅像と写真が撮れて楽しかった。

和輝：富士山が見れて嬉しかった。

舞菜：雪がちょっとだけ見れて嬉しかった。

いつかロングトレイルに挑戦を

くにむね あや
国宗 文

こんにちは

昨年、会友になった国宗です。山に囲まれた山梨県南アルプス市出身ですが登山の経験はほとんどありません。15年程前、家族旅行の際に、登山靴等一式をそろえたのを機に年一回は“歩き”にでかけています。昔から運動も苦手で、何をやっても万年初心者の域を抜けませんが、歩くことは大好きで苦にはなりません。いつか野を越え山を越え、ロンサントアゴ・デ・コンポステーラでピレネー越えとか…(夢です)



九十九谷の雲海

鹿野山からの展望



上総丘陵の連なる山並みの景観を九十九谷と呼んでいる。夜明け前から日の出直後と日の入り前の情景は墨絵の世界のようだ。

(写真：茂原市 保川久夫氏)

平成 28 年度 第 10 回 4 支部合同懇談会（群馬支部）

2 月 18 日（土）～19 日（日） 山田紀夫

今年で第 10 回を迎える日本山岳会 4 支部合同懇談会が、平成 29 年 2 月 18 日（土）～19 日（日）、群馬県富岡市「妙義グリーンホテル」で群馬支部担当で行われた。会場ホテルの目の前には、威容を誇る妙義山がそびえ立ち、山岳会の会場に相応しい場所だった。



妙義山を背に千葉支部参加者

懇親会は、群馬支部長の挨拶の後、各支部活動報告があった。当支部は、三木支部長が、「山の日」の「親子登山」、分水嶺調査に続く「郡界尾根調査」や公益事業の晴香園等の報告を行った。続く講演会は、最初に群馬県山岳連盟会長八木原氏により「群馬のヒマラヤ登山」の輝かしい歴史について語られた。続いて、小暮理太郎研究家の宮澤氏により、近代登山の先駆けとして知られ、日本山岳会の第 3 代会長を務めた登山家で山岳研究家の「小暮理太郎の人物像」について語られた。夜の懇親会では、各支部の会員同士和気あいあいと盛り上がり、余興の支部対抗「上毛かるた」で



神成山（富岡アルプス）山頂

千葉支部は、代表選手の小澤さん、柳川さんの活躍で第二位、さらに、塩澤さんは、ハーモニカの演奏を披露し喝采を浴びました。最後に三木支部長の海外山行「カムチャッカ・アバチャ山」の営業活動により数名の参加者を獲得しました。2 日目の朝、窓を開けると眼前の妙義山が雪化粧をしていたのには驚きましたが、天気は晴天で少し暖かい位でした。今日は、山行組と観光組とに分かれ、山行組は「神成山」、観光組は「富岡製糸場」。千葉支部会員の参加者 12 名中 11 名が山行組でした。神成山は、標高 321m、高低差 120m ですが、急登あり、痩せ尾根や九連峰のアップダウンありの楽しいコースでした。この山からは上州三山の赤城山、榛名山、妙義山、浅間山及び荒船山など上州の山々を望むことができました。今回の四支部会も充実した内容と支部同士のさらなる連携が図られ、大きな成果を上げることができました。次回は、同時期に栃木支部が幹事となり行う予定です。

参加者：三木雄三、鈴木美代、塩澤厚、山崎完治、湯下正子、小澤けい子、柳下忠義、山田紀夫、川島辰雄、坂上光恵、柳川しげよ、節田重節（敬称略）

お知らせ

支部だよりをメールで送ります

千葉支部だよりを平成 27 年 6 月号 (31 号) から全ページをカラー化し、幸いなことに皆様から好評をいただき、編集を担当する広報委員会として大変ありがたいことと思っています。

今後、本誌をより早く確実にお届けする方法の一つとしてメール配信を考えています。本誌の編集を終えて印刷屋さんまわした段階で、PDF 化してメールでお届けすれば、印刷物として郵送されるものより 1 週間程度早くお手元に着くと想定されます。また、支部としては経費の節減を図ることが出来るメリットもあります。

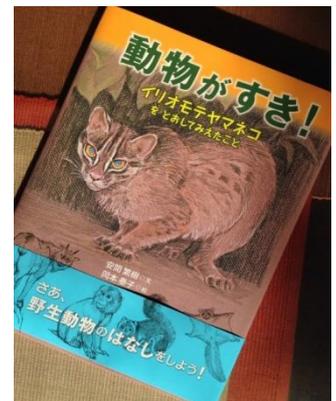
ご希望の方は、近くお送りする総会案内の葉書の所定の欄にご自分のメールアドレスを明記の上、申し込んでください。アドレスは個人情報として事務局長が厳重に管理いたします。(広報委員会)

安間会員が絵本を出版 「動物がすき」

安間繁樹会員が 1 月、野生動物と人との関わり合いを考える絵本『動物がすき!』を福音館書店から出版した=写真=。

国際協力機構の海外派遣専門家としてボルネオ島や西表島で研究を続ける安間さんが、西表島のイリオモテヤマネコの生態を通して「どうしたら動物と人がなかよくくらするのだろうか」と問いかける。絵は岡本泰子さん(文化学園大学造形学部准教授)が担当した。

定価は 1200 円(税別)。問い合わせは福音館書店(電話 03-3942-1266)。



「2017 年度千葉支部通常総会」のお知らせ

下記の通り、第 10 回通常総会を開催します。この総会において 2016 年度事業及び決算報告、2017 年度事業及び収支予算計画などご審議いただきます。追って詳しいご案内を差し上げる事としておりますが、今からご予約をお願いします。また、総会終了後には懇親会を予定しております。

記

日時 2017 年 5 月 13 日(土) 10:00~12:00

会場 京葉銀行文化プラザ 7 階 千葉市中央区富士見町 1-3-2 043-202-0800

総会審議 10:00~11:00

記念講演会 11:00~12:00

講師: 浜口欣一会員(慈恵医大山の会) 演題「槍ヶ岳と慈恵医大槍ヶ岳診療所」

総会終了後 懇親会 13:00~15:00 美弥和本店(千葉パルコ隣 043-225-5377)

役員会報告

12月報告 12月20日(火) 美弥和 (出席者 敬称略)

出席者 高橋、三木、三田、山口、山崎、山田、山本、吉永、吉野 9名

- ・次年度支部の事業について
 - ・山の日記念「親子登山」(12月11日)実施報告
 - ・栃木支部10周年大会(11月27日、宇都宮市)の報告
 - ・晴香園の引率について
- 終了後役員の忘年会

1月報告 1月17日(火) 市川アイリンク

出席者 坂上、高橋、三木、三田、山口、山崎、山田、山本、湯下、吉野 10名

- ・29年度事業計画について (自然保護観察会 4.23、海外 7.21~7.25、記念式典 8.26)、
- ・財務改善について(経費削減 支部だよりメール配信)
- ・10周年記念大会 8月26日(土)会場
- ・公益事業(主に晴香園について)
- ・海外山行 カムチャッカ 応募状況

2月報告 2月21日(火) 市川アイリンク

出席者 坂上、鈴木、三木、三田、山口、山崎、山田、山本、湯下、吉野 9名

- ・29年度事業計画について
- ・支部だより(38号)進捗状況について
- ・山行スケジュールについて
- ・10周年記念Tシャツ及びトートバックのデザインについて

編集後記

忘年山行に行って、節田重節さんと松田宏也さんにお会いした。あまり山に行かない山岳会員の小生は“しられた岳人”であるお二人とは初対面だ。懇親会で、松田さんからミニヤコンガからの生還の話を聞いた、まさに壮絶としか言いようのない話だ。そして、節田さんとの友情の話を心に打たれた。

お二人には、本号に山行の報告を書いていただいた。房総の山の素朴さと複雑さを楽しんだ様子が書かれている。また、節田さんは日本山岳会の会報誌「山」の1月号にも翌日の郡界尾根について書いてくれている。一部を引用させていただくと「房総の山は最高峰の愛宕山でも408メートルですから、正直ナメテいました。ところが、2日目の郡界尾根縦走は地形が複雑で、稜線が分岐するたびにしばしば立ち往生です。リーダーが地図やGPSと首っ引きで先導してくれなければ、とても歩けるものではありません」。まさに、その通りだと思う。

郡界尾根もいよいよ房総半島分水嶺の中心元清澄から内浦山を目指します。力強いお二人をお迎えし、房総の山を楽しんでいきたい、 (S. Y生)

山 行 の 予 定

(4月2日以降、支部行事等含)

行き先	日程	申込先	締切	備考
みかもやま 三轟山	4.2 (日)	山口文嗣 <u>支部だより参照</u>	3.25 (土)	カタクリの花を求めて春の北関東へ
西印旛沼散策ー2 (吉高の大桜鑑賞)	4.15 (土) 山田川岸バス 停集合	渡邊信一 <u>支部だより参照</u>	4.8 (土)	西印旛沼から吉高の大桜まで印旛捷水路を経て歩く
丹那断層見学会	4.23 (日)	鈴木美代 <u>支部だより参照</u>	3.20(月) 受付開始、定員 20名 3000円+ 資料代	マイクロバス使用、 J R 津田沼駅 AM 7:30 集合
支部総会	5.13 (土)	別途通知		14 ページ参照
奥足尾・中倉山	5.27(土) 5.28(日)	三田 博 <u>支部だより参照</u>	5.18 (木)	前夜発、マイカー利用。
尾瀬 沼山峠-燧 岳-見晴らし(泊) 三条の滝-御池	6.3(土) 6.4(日)	山本 哲夫 <u>支部だより参照</u>	5.13(土)	前夜発 マイカー 利用。コースタイム どうりで歩きます。
徳本峠とウエスト ン祭	6.3 (土) 6.4 (日)	山研運営委員会へ直接	新入会員対象。要項は会報 「山」4月号に掲載されます。	
御座山	6.10(土) 6.11(日)	山口文嗣 <u>支部だより参照</u>	5.28 (日)	展望の良い佐久の名 山
支部10周年記念 カムチャツカ・ア バチャ山	7.21(金)~ 7.25(火)	坂上光恵 <u>支部だより参照</u>		まだ若干余裕あり。

*電話での問合せは、支部長^{みきゆうぞう}三木雄三宛てにお願いします。(Tel 090-4393-3515)